



# 薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2025年  
No.7  
事例3

疑義照会・処方医への情報提供

## 配合剤の規格間違い



### 事例

#### 【事例の詳細】

カデュエット配合錠2番を服用していた70歳代の患者に、カデュエット配合錠3番が処方された。薬剤師は、血圧が上昇したためアムロジピンを増量することになったことを患者から聴取した。薬剤師は処方医が規格を間違えて処方した可能性を考え、疑義照会を行ったところ、カデュエット配合錠4番に変更となった。

#### 【推定される要因】

処方医は、カデュエット配合錠の各規格の有効成分の含有量を勘違いしたと思われる。

#### 【薬局での取り組み】

配合錠が処方された際は、それぞれの有効成分の含有量を確認する。



### その他の情報

カデュエット配合錠1番/2番/3番/4番の添付文書 2024年7月改訂（第3版）（一部抜粋）

カデュエット配合錠の規格	1番	2番	3番	4番
アムロジピンの含有量	2.5mg	2.5mg	5mg	5mg
アトルバスタチンの含有量	5mg	10mg	5mg	10mg



### 事例のポイント

- 本事例は、カデュエット配合錠の規格が変更になった際、患者から処方変更の経緯を聴取した薬剤師が、規格の処方間違いの可能性を考え、疑義照会を行った事例である。
- カデュエット配合錠は、アムロジピンの含有量が1番と2番、3番と4番で同じであり、アトルバスタチンの含有量は1番と3番、2番と4番が同じである。配合剤の規格が変更された場合は、有効成分の含有量を比較してどの成分が増量あるいは減量になっているのかを確認する必要がある。そのうえで、患者から処方変更の背景を聴取し、処方内容の妥当性を検討することが重要である。
- 配合剤の有効成分の含有量の違いを示す表記は、カデュエット配合錠は「数字」＋「番」であるが、この他にアルファベットの組み合わせ（APとBP、LDとHD、MDとEX）などがある。薬剤棚に有効成分の含有量を掲示することや、配合錠の比較表を作成して鑑査台に設置することなどは、有効成分の含有量の確認をスムーズに行うために有用である。



公益財団法人 日本医療機能評価機構  
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル  
電話：03-5217-0281（直通） FAX：03-5217-0253（直通）  
<https://www.yakkyoku-hiyari.jcqhcc.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。